

【参考資料】 Q & A

Q1.区域に指定されると何か制限をされるのですか？	区域指定によって土地利用等を制限されることはありません。区域内にお住まいの方や関係される方は、浸水時における各自の避難や浸水防止を行うための情報として、役立ててください。
Q2.最近に造成された場所の浸水深が深くなっていますが、造成後の想定ですか？	地形データは、区域図の作成時に取得可能な最新版（令和元年度時）を使用しています。その後の造成により地形が変わっている箇所の浸水深は、異なる可能性がありますので、ご注意ください。
Q3.想定される最大規模の雨とは、どのような雨ですか？	過去、大津市に降った最大の降雨量の雨は、平成24年8月に降った雨になります。その雨の1.9倍程度の降雨量の雨の降り方を、想定される最大規模としています。
Q4.色の塗られていない場所は、浸水の恐れがないのですか？	雨水渠施設からの浸水を対象としてシミュレーションを行っています。シミュレーションを行った範囲は整備済区域（黒枠）になります。そのため、雨水渠施設のない地域では、着色はありません。 また、河川の氾濫による浸水やその他の要因により浸水が起こる可能性があるため、着色のない地域だからといって、浸水が起きない地域という訳ではありません。
Q5. 雨水出水浸水想定区域図と水害ハザードマップの違いは？	雨水出水浸水想定区域図は、想定する浸水深のみを表示しています。水害ハザードマップは、浸水が起きた場合の避難の情報等を浸水深と一緒に表現されたものです。

【参考資料】 Q & A

Q6.どのようなシミュレーションをしているのですか？	大きな雨を降らせた結果、水路の許容量を超えると雨水が地表面にあふれ出します。あふれ出した水がどこに溜まるかを地形データに照らし合わせて表現したものです。
Q7.シミュレーションで水路の許容量以上の大雨を降らしているのに、着色されていない箇所があるのはなぜですか？	水路からのあふれ出しがあっても、あふれ出した箇所の地形が、ゆるやかな地形やくぼ地でない場合は、近くの低い土地へ流れ出していき、浸水深の色がつかないことがあります。
Q8.想定される大雨は1000年に1度しか起こらないので、リスクはそれほど高くないということですか？	1/1000年は、1000年毎に1回発生する周期的な降雨ではなく、1年間に発生する確率が1/1000(0.1%)の降雨です。発生頻度は低いのですが、規模の大きな降雨であることを示し、連続して発生することもあります。また、近年の大雨が頻発している状況では、そのリスクが高まっているため、市民の皆さんが備えるべき大雨災害の規模として示しています。
Q9.近年、激甚化しつつある大雨に対応できる雨水渠の整備を進めているのですか？	雨水渠の整備は、日常的に起こり得る大雨（発生確率年10%）に対応した整備を行っております。一方、雨水出水浸水想定区域図は、雨水渠の整備された地域に、近年、激甚化している大雨（発生確率年0.1%程度）が降った場合の浸水深を示しています。雨水渠整備がされたとしても浸水が0になる訳ではないため、浸水想定区域により、起こり得る最大のリスクを示すことで、大規模災害時を想定した、避難経路及び場所の確保、減災対策等を図ってもらうことを目的としています。

Q10.区域図で浸水される箇所に雨水渠の整備がされると、浸水の状況が変化すると思われませんが、区域の見直しは定期的にされるのですか？

定期や短期間での見直しは行いませんが、雨水渠整備の進捗状況により、浸水深の現状と大きな乖離がある際には見直しを図っていきます。
